

コミわか農園開設

県の「22年度地域発元気づくり支援金」の対象事業のうち、「市民による市民農園開設(遊休農地活用)」で43万1千円の補助金交付が決定されました。



遊休農地対策のひとつとして

若槻地区も耕作放棄地が年々増えており、地域としても何とかしなければという議論が高まっていました。昨年から市の出前講座や農地関連の法律等の研究を続けてきた結果、法人格があり、地主との間に長野市(農業公社)を介在させれば、その法人が農地を持たなくても市民農園を開設できることを知りました。

今年の2月に急遽、区長会の正副会長、コミわか部の会長が設立メンバーとして「一般社団法人コミわかグリーン倶楽部」を立ち上げ、市の農政課、農業委員会等の協力を得て「コミわか農園」と名づけた市民農園を開設することになりました。

7月1日から25区画で作付け開始

22年度の計画として、東条と徳間の6,000㎡を対象に54区画の農園を開設。設立メンバーはじめ賛助会員の協力を得て、数回にわたる草刈り、深耕、測量、区割りなど行い、7月1日に東条16区画、徳間9区画で作付けが始まりました。

利用希望者は全体で当初62名の応募があり、若槻地区だけでなく浅川西条、三輪、吉田、古里、朝陽地区などから応募がありました。

残り29区画は、予定していた土壌改良の客土の調達が大幅に遅れてしまったため、やむなく使用開始を遅らせざるを得ないという悩みに突き当たっています。

利用希望者からはまだかまだかの催促がきておりますが、市の関係部署、地区内の土木業者等のご協力を得て、早期に客土の確保に目途をつけ、残りの区画の使用を図るよう努力しています。

「腰をすえて土づくりを」「おかげで色々な野菜が」

— 利用者の声 —



荒れた畑を深耕しています

南堀Nさん「プランターで野菜作りをしたことがあるが、全く初めての経験です。大雨のあとは猛暑になり、土が硬くて往生している。腰をすえて土づくりをして、盆明けには秋野菜を蒔いてみたい」

浅川Yさん「全くの素人ですが、私の区画の近くに経験者がおられ、こんなものを植えたらというアドバイスをいただいてやっている。おかげで色々できてきた」
 ……Yさんは東条農園ではいちばん沢山なものを植えておられ、大変よくできていました。

駒沢新町Sさん「大雨で水はけが悪く困った。水路を作らないとこれから大変だ。作物はこれから植える、秋が楽しみだ」